安心・安全な廃棄物処理とリサイクルを目指して

エコスタッフ・ジャパン 代表取締役
田部和生さん

全国統一の研修制度で優良産廃事業者を認定

会社や店舗、病院など、主に家庭以外の事業所から出る廃棄物を産業廃棄物と言い、これを処分したりリサイクルするには、産業廃棄物処理事業者（産廃事業者）に委託することが義務づけられています。

しかし、中には不法投棄や環境汚染を繰り返す悪質な産廃事業者もいて、そうしたところがマスコミをにぎわすため、産業廃棄物に関わる事業者全体が、とかくマイナスイメージを持たれがちです。

こうした業界の状況を変えようと、平成十八年に設立されたのがエコスタッフ・ジャパンです。

「私たちは全国の優良産廃事業者をネットワーク化し、徹底した情報公開を行うことで、委託する側に『顔が見える』『安心・安全』な産廃事業者を紹介していく独自のシステムをつくりました。全国統一の教育研修を行い、優良企業と認定した業者には、コンプライアンス（法令遵守）の徹底や現場サービスの品質向上など、『安心・安全な廃棄物サービス宣言』を守るよう求めるのです。もちろん、全ての現場に足を運んで評価します」

こう語るのは、エコスタッフ・ジャパンの代表取締役、田部和生さん。以前はソフトバンクで、IT関連のベンチャー企業立ち上げを担当する部署に所属していたそうです。最先端のITビジネスから一見畑違いにも思える環境ビジネスへの転身は、どのような理由からでしょうか。

「高校時代から、何となく環境問題に興味はありましたね。地球温暖化にしても『なぜ、そんな問題が起きてしまうのだろう』と疑問に感じていました。自分たちが暮らす環境を自分たちで汚しているのなら、自らの手でその問題を解決することもできるんじゃないか、と思ったのです」

大学に進み、就職の時期を迎えた田部さんは、漠然としていた環境ビジネスへの思いを形にするため、大手建設会社の環境室などにアプローチしたといいます。しかし、そこで聞かされたのは「環境の仕事は、会社のイメージを高める宣伝のため」という企業の対応でした。本気で環境ビジネスに取り組みたかった田部さんの熱意は、はぐらかされてしまったのです。

環境ビジネスをいったん諦めた田部さんは、ソフトバンクに入社。インターネットオークションや求人情報サイトなど、数々のベンチャー企業を立ち上げていきます。時代の先端を行く仕事は面白く、充実感もありましたが、いつしか物足りない気持ちを抱えるようにもなりました。

「いろいろな会社を作り、その会社を成功させるために懸命に仕事をしてきました。でも、それだけでは面白くない、もう少し世の中のためになる事業はできないか、と強く思い始めたんです」

日本の処理技術を海外にも広めたい

自分のやりたいことを突き詰め、それが社会のため、人のためにもなるビジネスだったら最高だ。そう考えるようになった田部さんは、環境コンサルティング会社「リサイクルワン」の社長と出会い意気投合。五年勤めたソフトバンクを辞め、リサイクルワンに入社。念願だった環境ビジネスの世界に飛び込みます。

ここでリサイクル工場の立ち上げなどに奔走し、三年間環境ビジネスの経験を積んだ後、エコスタッフ・ジャパンの設立に参画したのです。

現在、エコスタッフ・ジャパンが認定している優良産廃事業者は三十七社。これまでに、基準を守ることができなかった三社の認定を取り消したこともあるそうです。

「長期的には、当社のネットワークで、産廃処理とリサイクルの『オールジャパン体制』を作りたいですね。そのために、まず認定企業を五十社にすることを目指しています。でも、無理に数を増やすつもりはありません。産廃事業者さんが当社のビジョンに賛同し、『よし、やろう』という気持ちになっていただかないと、長続きしませんから。あせらず、着実に取り組みたいと思っています」

設立から五年たった平成二十三年秋。エコスタッフ・ジャパンは「優良ドライバー検定」をスタートさせました。実際に現場で委託先と接し、産業廃棄物を運ぶドライバーは、産廃事業者の「顔」とも言えます。そのレベルアップを図るこの検定は、田部さんが「これを実現するために仕事をしてきた」と言うほど念願の企画でした。

「これまでもドライバーの研修を行っている産廃事業者さんはありましたが、会社ごとに研修の内容がまちまちなんですよ。全国で統一された教育を行えば、ドライバーの一人ひとりが業界全体の顔になり、それが不法投棄をなくすことにもつながると思うんです」

この検定のため、田部さんたちは百五十ページ以上に及ぶマニュアルをつくるなど、入念に準備を重ねてきました。現在、三十七社の認定企業には、合わせて千四百人余りのドライバーがいますが、その中で優良ドライバーの認定を受けたのは約二百人。まだまだ一部に過ぎないこの人数を増やしていくことに、田部さんは今、最も情熱を燃やしています。

田部さんは、環境ビジネスという仕事は何より「楽しい」と言います。

「お金儲けだけが目的であれば、この仕事はしていません。産廃事業者さん、とりわけ地方の会社の方々は、私たちが伺うと『こういうことをやりたいと思っていたんです』と、力強いエールを送ってくれるんですよ。その言葉を聞くと『私たちも頑張らなければいけない』と刺激を受け、さらにモチベーションが高まります」

将来は、日本の優れた廃棄物処理の技術や、エコスタッフ・ジャパンで作り上げた廃棄物処理のマニュアルや認定制度を海外に広めるのが目標だといいます。大学では国際政治経済学を学び、もともとグローバルなビジネスへの関心は高かった田部さん。今も英会話教室に通うなど、未来に備えて着実に準備を進めています。

環境ビジネスこそわが天職

たなべ・かずお

昭和50年広島市生まれ。平成10年、青山学院大学国際政治経済学部を卒業後、ソフトバンクに入社。数々のITベンチャーを起業させる。15年に環境コンサルティング会社の株式会社リサイクルワンに入社。リサイクル工場の立ち上げなどに携わり、18年、エコスタッフ・ジャパンの設立に参画する。趣味は山登りやダイビング、海外旅行というアウトドア派。
http://ecostaff.jp/